



名古屋市立大学の鶴飼教授より、各チームの活動プロセスや成果に対する講評をいただきました。ぜひ、皆さんの今後の様々な活動のヒントにしてください！



■ 鶴飼 宏成（うかいひろなり） ■

名古屋市立大学 学長補佐（産学官イノベーション担当）、大学院経済学研究科 教授
専門はアントレプレナーシップ教育の研究と実践、起業家論、ベンチャービジネス論。大学における教育実践として、Youth Enterpriseプログラムに参加する学生チームのアイデア創造・企業連携・商品開発・販売実践をサポート。

課題1 ～人にやさしいまち名古屋をめざそう！～ アジア競技大会・アジアパラ競技大会に向けたまちづくり

【STUアジアンピーポー】の皆さんへ

テストとふりかえり調査より、日頃の短時間の文化交流の重要性を明らかにした点は、実効性のある対策を見いだしたと言えるでしょう。写真にもあった外国人の笑顔が物語っていますね。また、文化交流の対象を、どこにいる誰にすると着手しやすいかを考察している点も具体性があり、行動に移しやすい提案になっていると思います。

その一方、文化交流の種類についての言及がほとんど無かったことが残念です。言語にとらわれないスポーツ、ゲーム等、多様な文化交流の可能性を仕掛ける提案がもっとあってよかったように思います。

これからの皆さんの関わりに期待しています。

【Step Action】の皆さんへ

人にやさしいまちを「助け合いが当たり前、住む人・訪れる人も誰もが自分らしく生きるまち」と定義したことで、何をを行うかが明確になりましたね。これはこのチームの事業コンセプトと言えます。2030年を目指し将来アクティブに社会活動ができる現在の中学生をターゲットに、「様々な場面に置き換えて考えて体験する」機会を提供し、未体験の生活を当事者意識が持てるようになるアプローチとして提案している点が優れています。

他方で、5W1Hで考えた場合、より多くの中学生が具体的に体験できる提案になっていないようです。よい着眼点を実行計画に落とすことまで、あと一歩ですね。今後期待しています。

課題2 ～伝えたい！使ってほしい！安心・安全でおいしい名古屋の水道水～ 安心・安全でおいしい水道水の魅力発信

【ウォーターラボ】の皆さんへ

なごやの水道水の特徴を通じて、幼少期から自然の豊かさの意義と浄水の仕組みについて学ぶ機会を提供するアプローチ、大変興味深いですね。活動を継続させて、全ての児童館で大学生と一緒にプレイする機会へと発展させてください。きっと、子ども達の夢が広がり、気づきが挑戦の種となるでしょう。

しかし、疑問があります。先日、おいしい水道水PR用「名水」をある会議で飲むチャンスがありました。不思議なことに、ボトリングされた場所が愛知県外でした。脱炭素社会への移行期にあり、長距離を移動する「名水」はどのように評価されるでしょう？どの視点から名古屋の水道水をプロモーションするのか、企画側の意図が試される時代になっています。

【水しぶ木】の皆さんへ

課題の幅が広い中で「名古屋の水道水の魅力度向上計画」を立案するにあたり、美味しいに加えて「安全性」に着眼した点は興味深いですね。木曽川、微生物の力を利用する緩速ろ過、電気を使わない送水など、美味しい水につながる「過程」を取り上げることで、水への興味がより高まり、結果的に名古屋の水への魅力が増すように思います。

その意味で、TikTokによる動画は短時間で異なるコンテンツを視聴できるためよい手段と思います。他のコンテンツの制作を継続して行き、効果的な情報発信を目指してみてください。

課題3

～立ち止まってほしい・・・エスカレーター大作戦！～ エスカレーターの安全利用促進に向けた啓発

【COMMIT】の皆さんへ

人の行動変容を促すのは一筋縄ではいきません。いくら条例が制定されたとしても、普及しなければ効果は限定的です。そこで、提案にある「私たちが進んで右側に立ち止まる」を是非実行に移してみてください。年間を通じて路線を変えつつ取り組んでみてはどうでしょうか。

また、名古屋大学と名古屋工業大学の比較は興味深い着眼点であり、挑戦です。だからこそ、もっと、行動経済学のナッジを応用したアプローチを検討して、今のポスターやステッカーの内容を変化させ、効果を測定してみてください。探索的な取り組みになりますが、他の問題解決に応用できる貴重な挑戦になると思います。

【new view】の皆さんへ

人の行動変容を促すために、物理的な環境改善に言及している点が興味深いですね。今回で言えば、階段という代替手段をつくることで、新しい習慣に変えるための対策を加えることが現実的になります。現在は、危険性のみですが、行動経済学のナッジを応用すると、健康寿命を長くする等の要素を加えることができるでしょう。人の欲求は様々ですが、どのタイプの人の何に訴求することで行動が変わるのかを検討し、人の欲求毎に対応を変えることにも挑戦してみてください。

余談でナッジとは異なりますが、50年ほど前、名古屋駅の乗車は順番などありませんでした。駅員の方が必死で問題提起していた姿が思い起こされます。今回で言えば、きっとエスカレーター乗車口での声かけの繰り返しが、行動変容の貴重なきっかけになるはずです。

課題4

～生涯学習センターを多様な世代がつながる拠点にしたい！～ 生涯学習センターに若い世代を取り込む工夫

【Ambitious Nagoya!】の皆さんへ

300件のサンプルを集めたアンケート調査、ご苦労様でした。いつ、誰と、どのような活動であれば参加するかの条件が上手く抽出できています。そして、既存の講座の認知度と申込み対策の提案は、オーソドックスなアプローチです。

しかしながら、今回の調査で不足しているのは、講座の内容分析ではないでしょうか？「利用する目的がない」が最も多い74%強を占めながら、それに関する対策が講じられていないように思われます。

生涯学習センターの講座は、評者の知りうる範囲で言えば3種類に分かれます。是非皆さんで、若者が利用したい講座等を企画して実施してみてください。それが最も効果的な対策かもしれません。

【幸～しゃち～】の皆さんへ

「多様な世代がつながる可能性のある生涯学習センターは、地域活性化の拠点『みんなの学校』である」。このようなセンターの再定義に結びついた、チーム皆さんの熟議は大変優れています。

また、青春は年齢に関係ありません。人は挑戦していれば青春を謳歌しています。だからこそ「みんなの学校」というコンセプトは、誰しもうれやうしいシーンを人に想起させることができます。

皆さんが根本的な原因を追究し、効果の持続性を検討し、当事者意識を持つまでに至った時間の過ごし方は、みんなの学校が提供する一つのあり方でしょう。ぜひ、次のステップとして「誰でも先生」という考え方で、講師と講座の設計を年単位で考えてみてください。子どもでも先生になれる提案を楽しみにしています。

鵜飼教授より
全体を通して

参加した皆さんにとり、大学、専門、学年を超えて名古屋市の現実的な課題に対して向き合った活動は、貴重な経験になったと確信しています。

今回の課題設定の背景にある問題は、「やっかいな問題（Wicked Problem）」という特徴があります。すなわち、立場により対策の考え方が異なるだけでなく、時間がたって技術や環境などが進化すれば、問題自体が変質する可能性があります。答えは一つではないのです。

だからこそ、多様な人が協働し、相互の対話と熟議を通じて、よりよい未来を描き、問題を捉え直し、課題を設定して対策を実行に移していくプロセスが欠かせません。

今回参加した学生の皆さんは、活動をもう一度振り返り、そして、同じメンバーで再挑戦してみてください。これは、経験学習の1サイクルを終えること、次への出発点に立つことを意味しています。

応援しています！

